

■今村明恒 大震災への準備を訴えて排斥され、関東大震災が起き一躍寵兒。東南海大地震警告も、戦争で再び不遇。

いまむらあきつね
初の日刊新聞1870＝

鹿児島市新屋敷町で、薩摩藩士今村明清の三男に生まれる。先祖に長崎の大通詞で蘭学者の今村英生あり。生家は士族としてかなり裕福な生活で何不自由なく暮らす。

明治6年政変 1873＝ 3歳：
初の民間工場1875＝ 5歳：
三つの内乱・1876＝ 6歳：
西南戦争・・・1877＝ 7歳：

第五郷校に入学。
第五郷校が松原小学となり、進学。数学や理科の才能を母方の叔父大河武輔や教師三原佐吉に見込まれ、この年起きた西南戦争の西郷軍に叔父大河武輔が参加し、戦死。戦後、父が職を失い一家が困難に直面するなか、真正コレラに罹って九死に一生を得るが、苛めに遭って学校を欠席がちになり、落第。

沖縄県編入・1879＝ 9歳：
明治14年政変1881＝11歳：
岩倉具視没・1883＝13歳：
秩父事件・・・1884＝14歳：

父が有価証券を詐取されて没落、生活難で教科書代にも事欠く。父は、その後、鹿児島県外二等出仕。鹿児島中学(後の県立中学造士館)に入学、元服し、明恒と名のる。後、鹿児島高等中学造士館に進学。父が依願免官で再び失業。唯一の収入は神戸で巡査をしている長男からの仕送りだけで、家財や庭木まで売りつくし、極端な貧窮に陥り、その厳しい生活体験で発奮。

内閣発足・・・1885＝15歳：
初の対条約1888＝18歳：

父が月俸七円の准判任御用掛に任じられ、一家は狂喜。
鹿児島高等中学造士館を卒業。長兄明文から送金された六円を元に上京し、第一高等中学校に入学。以後、長兄とその岳父岡留信好から僅かな学費を送金されるも、文字通りの苦学生で過ごし、

帝国憲法発布1889＝19歳：
大津事件・・・1891＝21歳：

卒業し、**帝国大学理科大学物理学科に進学**。直後に濃尾大地震が起り、地震学助手大森房吉に依頼されて**現地調査**。大森の報告会で種々質問して学問的に未解明の問題が多いことを知り、地震学を志す。

大本教・・・1892＝22歳：
郡司千島探検1893＝23歳：
日清戦争始・・・1894＝24歳：

学業を援助してくれていた長兄が敗血症で死去。
郷里鹿児島から上京する貧しい学生たちのため、駿河台に{昌平学舎}を設けて主宰。資金の出所は不明。卒業後、引き続き大学院に通い、地震学を専攻。初の手当は、生家への仕送りを毎月欠かさず。**山形庄内地震が起き、測量の帰途、庄内と視察、惨状をのたりにして地震学専攻への志を新たにす。**

日清戦争終・・・1895＝25歳：
白馬会・・・1896＝26歳：
八幡製鉄始・・・1897＝27歳：
Bushidou・・・1899＝29歳：
ピノ国産化・・・1900＝30歳：
田中正造直訴1901＝31歳：

理科大学副手を委嘱されるも無給のため、アルバイト。**留学する大森房吉の仕事を引き継ぐ。**
陸軍中央幼年学校教官となるが、大地震学教室にも出勤。**史上最大級の三陸大津波が起き、再三踏査。**
旧薩摩藩士娘と結婚。両親への仕送りや弟への援助で生活は苦しい。**帰国した大森が教授に。**
長女が誕生するも死去。**三陸大津波の「取調報告」の中で、津波の原因を論じ、大森に批判され論争。**
陸軍省築城本部御用掛り兼勤。長男文雄が誕生。この年、妻・弟が赤痢に罹り、治療費に窮す。
東京帝国大学理科大学助教に任命される(陸軍教授と兼任のため、以後長期に無給)。「普通対数表」出版。次男が誕生するも脚気で死去。以後、家での麦飯常食を厳命。

教科書疑獄・・・1902＝32歳：
日比谷公園・・・1903＝33歳：
日露戦争終・・・1905＝35歳：

この頃、2度転居。三男が誕生。
大森教授海外出張のため、業務代理を命じられる。
次女が誕生。***理学博士となる。雑誌{太陽}の一般人への地震対策記事で、今後50年の間に関東に大地震が起りうると説き、今村・大森論争の口火となる。日本人学者による最初の地震学書「地震学」出版。**

満鉄発足・・・1906＝36歳：

{東京二六新聞}が「丙午」の迷信と合わせて{太陽}の記事をセンセーショナルに報道、同新聞に抗議文を送り掲載されるも、たまたま東京で地震があり、以後、連日メディアが不安をおおるうち、東京でかなり強い地震で大騒ぎになると、各紙が大森房吉の寄稿を掲載。ついに、{太陽}で大森が、名指しを避けながらも今村説を「浮説」と批判。納得しなかったが、当時の地震学界最高権威の主張とあって世間はおさまる。

韓国反日暴動1907＝37歳：
アヲキ創刊・・・1908＝38歳：
伊藤博文暗殺1909＝39歳：
韓博併合・・・1910＝40歳：
大逆事件判決1911＝41歳：
明治天皇没・・・1912＝42歳：
大正政変・・・1913＝43歳：
第一次大戦始1914＝44歳：
21ヶ条要求・・・1915＝45歳：

家族全員で帰郷した際、地震騒動の張本人と非難されている新聞を読んだ父から弁明を求められ閉口。
三女が誕生。次女が二階から転落死。転居。
姉川地震調査のため滋賀・岐阜に出張。この頃から、家族と近親を招いた「晦日蕎麦会」が恒例となる。
四女が誕生。**大森式地震計を改善した今村式地震計を製作、英博覧会に出品し、グランプリを贈られる。**
陸軍築城本部御用掛り兼勤を免じられる。この頃から、毎年母校の教師を一人ずつ東京に招待し、案内。
中古の家を買い、転居。**過去の大地震の記録と古地図を参考に作成した東京・大阪の予想震度図を発表。**
四男が誕生。**震災予防調査会委員となる。**

民本主義・・・1916＝46歳：

桜島大噴火し、震災予防調査会から、調査のため鹿児島に出張。
ローマ字出版社からユニークな小冊子「東京辯」を刊行。五男が誕生。**上総の東・南部で群発地震が発生、大森教授が出張中のため代わって談話を発表。慎重に話すも、問題化。大礼参列を取り止めて急遽帰京した大森から叱責されて悲観するが納得せず、論争が再燃。**
桜島爆発記念碑建立を提言し、鹿児島市が碑文案を起草し提出。陸軍大学付兼任。濃尾地震調査出張の折に知り合った昆虫学の権威名和靖から義太夫の師匠豊竹呂昇を紹介され、以後、熱心なファンになる。

ロシア革命・・・1917＝47歳：
本格政党内閣1918＝48歳：
大暴落・・・1920＝50歳：
原敬首相暗殺1921＝51歳：
水平社結成・・・1922＝52歳：

先祖の墓探しのため長崎へ赴き、発見された今村家の墓を修理。
四女が誕生。父から長年の仕送りと弟たちの教育への感謝の手紙。地震予知特殊機関設置の必要を強調。
末娘が誕生。**文部省が創設した学術研究会議委員。**
父が死去。鹿児島に帰郷し、兄弟が「今村三博士」として評判になる。
文部省の命で、ローマで開催の国際測地学・地球物理学連合(IUGG)第一回会議の日本代表となり、初めて洋行。この間、大森が講演で、'当分東京付近には大地震がないと断定し得る'と発言。

関東大震災・・・1923＝53歳：

噴火を始めた北海道樽前山の調査のため登山、下山の途中、大爆発。各紙に今村の安否を気遣う記事。地震学教室に在室中、関東大震災が発生。かねて警告した被災規模が的中。大森が海外出張中のため、教授代理として、一切の対応。帰国乗船中の大森が病気の電報が入り、横浜港に迎えに出るも、そのまま入院し、死去。{読売}に「はやりつ児今村明恒博士」の記事がでるほどになる。東京帝大理学部に地震学が設立され、その主任、助教授23年経て、ようやく教授に昇進、初めて文部省から俸給を受ける。

護憲三派王勝1924＝54歳：

「地震講話」出版。雑誌{太陽}臨時増刊号で'学会随一の人気者'として紹介。遠地(中米)地震の震源を即席で発表し、新聞で問題化。誤謬を認める。有馬頼寧の提唱の「震災共同募金会」に参加、以後、毎年参加。
但馬地震調査。山階宮家の寄附で、鎌倉地震観測所が完成。帝国学士院会員となる。先祖今村英生について調べる。今村案は構想が大き過ぎ、末広恭二らの案で地震研究所設立。

治安維持法・・・1925＝55歳：

地震研究所々員。「地震の征服」出版。
日丹後地震調査。プラハでの万国測地学・地球物理学総会に出席。**なお諸雑誌で神様扱いが続くなか、*次の大地震は南海道ではないかと観測に着手、私財を投じて南海地動研究所を設立し、次男を配置。**
新しい地震学会が創立され、会長に就任。以後、機関紙{地震}を中心に旺盛な執筆活動。

円本時代始・・・1926＝56歳：
金融恐慌・・・1927＝57歳：
共産党事件・・・1928＝58歳：
世界恐慌・・・1929＝59歳：
海軍軍縮条約1930＝60歳：

長年にわたって親交のあった義太夫の師匠豊竹呂昇が病死。**山本一清との共著「星と雲・火山と地震」を刊行、名著となる。ヨーロッパ出張で諸国を回る。北伊豆地震。**
東京帝国大学を定年退官。従三位。桃山地震観測所が完成。母が死去。耐震設計の新居「煙霞荘」が完成。
家訓を定める。三陸大津波現地踏査。**関東大震災の予言事件を回顧し、南海道大地震到来への世論喚起。**

満州事変・・・1931＝61歳：
国際連盟脱退1933＝63歳：
二二六事件・・・1936＝66歳：
日中戦争始・・・1937＝67歳：
第二次大戦始1939＝69歳：
大政翼賛会・・・1940＝70歳：

イギリスのエジンバラで開催の万国測地学・地球物理学連合第6回国際会議のため四回目の渡欧。
妻との最後の旅行。長年にわたる働きかけが実り、小学校教科書に地震への心得が載る。
再婚。
「鯨のざれごと」出版。***日米開戦で、南海道地動観測事業が困難となり、**

日米開戦・・・1941＝71歳：
・・・1942＝72歳：

「蘭学の祖今村英生」出版。
食料事情が悪化し、農耕を始める。**東海地震への備え訴えるも、戦時下で効無し。鳥取地震。**
渥美半島にある東京帝大農学部試験場内に、東海地動観測設備直後、東南海地震発生。
三河地震発生し、南海道地震がいよいよ近いことを暗示。敗戦。鹿児島が生家も焼失を知る。
元陸軍教授の経歴を問われて公職追放になる。勅令によって恩給も停止され、極度の生活難に陥る。{地震}再刊、**和歌山県庁と前室戸町長などに手紙を書き、警告直後、ついに、南海大地震発生。**

創価学会検挙1943＝73歳：
年金+総武装1944＝74歳：
敗戦・・・1945＝75歳：
新憲法公布・・・1946＝76歳：

地震予知研究連絡委員会に委員として招請されるも、失望し、和達委員長に辞表を提出。再発した地震学会で、会長を辞任。体調を崩し、容体が悪化するも、注射を断り、好物の蕎麦を食べ納めると、元旦に、**没した。**
地震予知の先駆者今村明恒の生涯、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、

新憲法施行・・・1947＝77歳：

樞東裁判判決・・・1948＝78歳：
TUP遺書「君子未然に防く」